

営

農

情

報

水稻の生育は順調でしょうか？

令和4年産の水稻栽培はいよいよ後半の管理に入ってきます。これからの管理がコメの収量・品質に大きく影響を与えることになりますので、ポイントとなる作業をしっかり押さえて作業に取り組みましょう。

穂肥施用の目安(「一般高度化成444」使用の場合)

田植え日	品 種	穂肥 1 回目		穂肥 2 回目		穂肥施用の目安	
		時 期	施用量 (kg/10a)	時 期	施用量 (kg/10a)	葉 色	出穂前日数 (幼穂長)
5月5日	コシヒカリ	7/9	15	7/16~19	15	3.5以下	18日前 (5~10mm)
5月5日	キヌヒカリ	7/3	20	7/10~13	20	4.5以下	25日前 (1~2mm)
5月5日	日本晴	7/12~14	30	-	-	4.0以下	25日前 (1~2mm)
5月5日	秋の詩	7/16~18	20	7/23~25	15	4.0以下	21日前 (2~4mm)
5月5日	滋賀羽二重糯	7/25	15	8/1	15	3.5以下	18日前 (5~10mm)

穂肥は適期施用が重要で、ほ場ごとに必ず幼穂長と生育(草丈・葉色・茎数)を確認してから施用します。施用時期が早いと茎や止葉が伸びやすくなり、倒伏しやすくなります。逆に遅れるともみ数の不足や未熟粒の増加、食味低下につながります。

水稻の穂肥施用

稲を加害するおもなカメムシ(主要3種)



ホソハリカメムシ



クモハリカメムシ



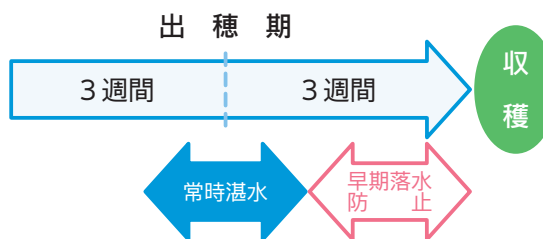
トゲシラホシカメムシ

カメムシは、ほ場に侵入する前に畦畔雑草の中に生息し増殖します。耕種的防除には、出穂期(このち出てくるすべての稲穂の約4割が確認できた時期)の3週間前と出穂期の2回の畦畔除草が有効です。

カメムシ対策

カドミウムは、ほ場に水を張り土壌を酸素不足の状態(還元状態)にすることで、土壌中の硫黄と結合し、根から吸収されにくい状態となります。具体的には、出穂前21日から出穂後21日の6週間は、水田に水を張った状態を保つことで、水稻が土壌から吸収するカドミウムの量を減らすことができます。

カドミウム吸収抑制対策



★こまめな水管理で胴割れ粒、乳白粒を減らしましょう！